大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F14231011238	設置等組織名	未来理工学部（知能情報学科、データサイエンス学科、建築・デザイン学科）
大学名	長崎国際大学	設置区分	私立	事業計画名	長崎国際大学 未来理工学部設置計画
学校種	大学	都道府県	長崎		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
フェーズ1	1-① 令和6年4月 「新学部設置準備室」を設置し学部・学科構成、及び教員組織等について協議開始 1-② 令和6年7月 「新学部設置準備室」の事務職員雇用(次年度以降も継続雇用)。備品の購入、事務用品の購入 1-③ 令和6年7月 高校生へのアンケート調査実施計画、及び企業等へ配布する新学部リーフレット作成等の協議開始 1-④ 令和6年8月 デジタル・IC関連企業、建設業界、産業界、県内自治体からの意見聴取及び意見交換の開始(継続実施) 1-⑤ 令和6年10月 新学部申請書類作成着手・作成開始。新学部棟建設の打ち合わせ-測量・設計等開始 1-⑥ 令和6年10月 教員採用にあたって大学、企業、研究センター等の訪問(次年度以降も継続実施) 1-⑦ 令和7年4月 事務職員追加雇用。パソコン、机等機器類等購入、事務用品購入 1-⑧ 令和7年11月 理工系学分野リーフレット作成準備 1-⑨ 令和8年5月 令和8年10月 新学部開設連絡会開催(各地域において企業・高等学へ説明会実施) 1-⑩ 令和8年9月 文部科学省からの学部の認可通知を受け学生募集開始。大学HPへの新学部案内掲載、大学パンフレット作成	1-① 令和6年9月 「新学部設置準備室」を設置し学部・学科構成、及び教員組織等について協議開始 1-② 令和6年9月 「新学部設置準備室」の事務職員配置(次年度以降も継続雇用)。 1-③ 令和7年1月 高校生へのアンケート調査実施計画、及び企業等へ配布する新学部リーフレット作成等の協議開始 1-④ 令和7年1月 デジタル・IC関連企業、建設業界、産業界、県内自治体からのアンケート及び意見聴取の開始(継続実施) 1-⑤ 令和7年5月 新学部申請書類作成着手・作成開始。新学部棟建設の打ち合わせ-測量・設計等開始 1-⑥ 令和7年5月 教員採用にあたって大学、企業、研究センター等の訪問(次年度以降も継続実施) 1-⑦ 令和7年5月 事務職員追加雇用。パソコン、机等機器類等購入、事務用品、備品等購入	R6年度自己評価 【2】計画を十分には実施していない。 申請時に設置計画としていた「大村市（長崎県県央地区）」での理工系学部新設を、既存学部（3学部4学科）のある「佐世保市（長崎県県北地区）」で開設すべく変更したことで取組状況の見直しが必要となった新学部設置にあたっては、既存施設共有が可能で、教育・研究面での相乗効果・教育効果が期待できる現キャンパス内で進めるとともに、佐世保市の協力を得ながら学内体制を再度整備する。 学部の所在地を大村市から佐世保市へ変更した理由は、大村市の市庁舎移転計画や市民の要望による施設設置計画に伴う財政状況の変化により、本学の開設準備スケジュールの調整が困難となり、確実な計画遂行に支障が生じる可能性が高まったことにある。（令和7年3月27日 助成金計画変更申請の際に変更理由として記載） R6年度自己評価 【2】計画を十分には実施していない。 本学の未来理工学部設置計画については、当初計画からの変更が生じ、令和6年度に実施予定としていた企業訪問や高等学校との連携、多様な入学者確保に向けた取組み、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備等、各種計画の実施が十分に進展していない状況にある。特に、設置場所の変更に伴い当初予定していた自治体からの財政支援が受けられなくなったことが、計画遅延の要因の一つとなっている。 今後は、佐世保市の協力・支援を得ながら、産業界との協議を加速し、企業が求める人材像を明確にした社会ニーズを踏まえたカリキュラム編成を推進する。また、これと並行して女子枠や社会人枠・留学生枠を含む具体的な入試制度設計を早急に進め、計画の確実な実施に向けて取り組んでいく。
	フェーズ2 前倒し	2-① 令和7年4月 新学部棟工事着工開始予定	2-① 令和7年4月 新学部棟工事着工へ向けて準備を開始する
認可申請又は届出	令和8年3月 未来理工学部 知能情報学科、データサイエンス学科、建築・デザイン学科設置認可申請予定 令和8年3月 収容定員の総数の増加 認可申請予定		
フェーズ1 後倒し	1-② 令和6年7月～令和12年3月 事務職員雇用、事務用品、備品等の購入(継続して行う)		○年度自己評価 リストから選択してください。
	フェーズ2	2-① 令和7年4月～令和9年2月 令和7年4月新学部棟工事着工開始予定 2-② 令和9年2月 新校舎完成 竣工・引き渡し	○年度自己評価 リストから選択してください。
開設又は定員増	令和9年4月 未来理工学部（知能情報学科、データサイエンス学科、建築・デザイン学科）開設予定 （入学定員160人、編入学定員10人 工学関係）		○年度自己評価 リストから選択してください。
フェーズ2 後倒し			○年度自己評価 リストから選択してください。
	フェーズ3	3-① 令和9年4月 新校舎での授業開始及び学生対応開始 事務職員4人追加雇用。ノートパソコン、プリンター機器類の購入及び机・椅子等購入。新学部事務用品購入 広報用のパンフレット、大学HP作成 3-② 令和9年4月 自走化へ向けての協議開始。寄附金の増加を図るため地元企業、卒業生との連携強化 3-③ 令和9年5月 教育内容の振り返り、及びリジョブプログラム推進について、高等学校、近隣大学、近隣企業との協議 3-④ 令和9年7月 デジタル関連企業等へ「PBL型」授業講師派遣依頼、インターシップ実施についての協議 3-⑤ 令和11年5月 事務職員1人追加雇用。新学部のこれまでの開設状況について企業、高等学校への報告会開催	○年度自己評価 リストから選択してください。 ○年度自己評価 リストから選択してください。 ○年度自己評価 リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和8年4月 健康管理学部 健康栄養学科16人減員に係る届出予定（入学定員10人、編入学定員6人 家政分野） 令和8年4月 薬学部薬学科(6年制)10人減員に係る届出予定（入学定員10人、薬学分野）		

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	長崎国際大学
-------------	-------	-----	--------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3. 申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table border="1"> <tr> <td>確認を受けている</td> <td>☒ チェック</td> </tr> <tr> <td>確認の対象に該当しない</td> <td>☐ チェック</td> </tr> </table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	左記の事項については、新学部設置場所の変更等により全体的な計画が遅延している状況にある。産業界との協議や社会ニーズの詳細な調査が計画通りに進んでおらず、これらを反映した学修目標の具体化やカリキュラム編成に遅延が生じている。改善のため、今年度は、本学の地域連携室が企業や産業界を訪問し地域ニーズの聞き取りを行う。入試募集センターは高等学校を訪問して教育ニーズを把握し、これらを教育体制に反映させていく。また、国際的な質保証の枠組みを活用した出口戦略における質保証については、学位プログラムにおける学習成果の可視化や国際通用性のある教育課程の構築を教務課や国際交流センターと進める。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☐ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画については、学科長の目途は立ちカリキュラム編成は進めているものの、実務系教員の確保が十分でなく遅延している状況である。改善策として、長崎県内の企業との連携強化を進め実務家教員の招聘体制を構築するとともに、全国的なネットワークや柔軟な任用制度を活用していく計画である。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☐ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	令和6年度において企業を訪問し協議を行う予定であったが、新学部設置場所の変更により企業訪問が遅れている。令和6年度末には、県内企業が集まる場において新学部設置について簡単ではあるが説明を行っている。ただ、当初の計画通りとは言えない。なお、今年度に入ってから、担当部署である地域連携室を中心に訪問を開始し、本学の実施計画を説明するとともに、企業および地域にとって必要な人材について具体的な協議を開始したところであり、今後も引き続き継続して進めていく。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☐ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
⑨	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑪	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組については、新学部設置場所の変更等により計画が遅延している状況にある。このように昨年度は、連携予定機関との具体的な協議や連携体制の構築が十分に進んでおらず、教育プログラムの共同実施や多様な入学者確保のための取組に必要な体制が途上にある状況である。今年度は、学内関係部署の連携を強化し担当部署を設け、地域の教育機関や産業界との協力関係を早急に構築する。また、多様な学生受け入れに向けた制度整備を推進し、実効性のある連携体制の確立と取組の着実な実施を図っていく。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☐ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
⑭	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	学位授与機構への進捗報告については、これまで確認を行いながら進めているが、記載内容の訂正を求められることや提出を失念する事案が発生し、関係機関にご迷惑をおかけしたことがある。これらの事態を重く受け止め、今後は複数名による確認体制を義務付け、報告書類の精度向上と提出期限の確実な遵守に努める。また、学内においてさらに情報共有を進め誰でも対応できる体制とする。なお、機構が実施する会議等へは参加している。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td> <td>☐ チェック</td> </tr> </table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☐ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☐ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	長崎国際大学
-------------	-------	-----	--------

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>a. 長崎国際大学のキャリア・ポリシーには、「アクティブ・ラーニングを全授業科目において展開するとともに、その成果を活かす実習を組み込む」としており、現行のキャリアにおいて、自治体や地元企業と連携した「アクティブ・ラーニング」、「PBL型の授業」、「地域を題材とした実践型の授業」を開設している。また、地方の大学として佐世保市および近隣の自治体や企業と連携し、「地域課題解決のための教育プログラム」を開設するなど、教育研究の成果を幅広く地域へ提供することで社会発展に寄与してきた。</p> <p>現在、長崎県には、「SUMCO」や「長崎ソーニール」、「長崎キヤノン」の企業を始め、地場産業として中小の半導体製造メーカーや先進企業がある。また、建築系では、県内の設計会社だけでなく、本学福祉学科教員によるユニバーサル・デザインの講義を開設する。</p> <p>今回開設予定である「情報系」、「建築学系」においても現行のキャリア・ポリシーを踏まえ、このような地元企業や近隣の自治体と協議しながら企業技術者による科目を配置し、「アクティブ・ラーニング」、「PBL型の授業」をキャリアに積極的に取り入れ開設して行く。</p> <p>また、企業に働きかけインターンシップも実施する予定である。このように企業と教育体制の連携を図り、企業技術者による実践的な、双方向による授業を開設していくことを検討している。</p>	<p>企業や自治体と連携した科目の協議・整備については、計画が遅延している状況である。</p> <p>令和6年度は、設置場所変更に伴う学内体制の再構築や設置認可手続きの見直しにより、企業との連携に向けた具体的な協議や教育プログラムの詳細設計が後手に回った。このことで、PBL型授業やアクティブ・ラーニング科目の具体的なカリキュラム編成についても検討段階に留まっており、実施に向けた体制整備が遅れている。</p> <p>このように、令和6年度は、具体的な連携科目の設計や企業技術者による実践的授業の詳細検討、インターンシップ制度の構築については十分な進捗が得られていない状況であったが、今年度に入り、体制を整え佐世保市との協議や地元企業である「SUMCO」「長崎ソーニール」「長崎キヤノン」等への訪問を開始したところである。</p>	<p>企業・自治体との連携、取り組みの実施が後手に回っている状況であることを踏まえ、今後は佐世保市の協力を得ながら、長崎県内の半導体関連企業や建築系企業および一般企業との連携協議を加速し、PBL型授業やアクティブ・ラーニング科目の具体的な設計を進める。また、企業技術者による実践的な授業科目の配置や学生のインターンシップ受け入れ体制の整備を早急に実現し、産学連携による実践的な教育体制を確実に構築していくため、本学の地域連携室を中心として訪問計画を立て企業訪問を実施していく。</p>

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>b. 女子学生の受け入れに際しては、入学選抜試験の見直しだけでなく次の事項を積極的に進め受験者増に努める。</p> <p>① 「女子枠」を入学定員の10%程度設ける。② 女子校への指定校推薦枠を設ける。また、これらの高校と高大接続、高大連携を進めて行き情報系・理工学系の良さ、強みを知ってもらう。③ オープンキャンパスやガイダンス等において、近年の企業の状況は女子の活躍の場が多く、多くの企業で採用を受け入れている現状があることを周知していく。④ 理工農系分野へ進学する女子学生には、民間資金を活用した新たな修学支援制度が2024年度から始まることから制度の活用を促す。⑤ 文理選択・学部専攻で男女間による差が生まれている現状を受け止め、女子学生が慣習や固定観念にとらわれず未来の進路を選べるよう積極的に発信して行く。⑥ 長崎国際大学、佐世保高専、佐賀大学、西九州大学の4大学で進める「リケジョ」推進事業を活用する。</p> <p>d. 「社会人枠」を設け積極的に受け入れを行う。また、仕事に関する専門的な知識やスキルを学ぶリカレント教育、技術革新や新しい知識・スキルを学ぶため企業からの要請に対応できるようリスキリングプログラムを導入する。大学院開設時には昼夜開講制を設ける。</p> <p>e. 「留学生枠」を設け積極的に受け入れる。現在、協定を結んでいる海外大学及び国内の日本語学校との連携の強化、及び新規開拓を行い理工学部へも留学生を受け入れていく。なお、現在、海外のとの協定校数は、11ヶ国、1地域 92校となっている。</p>	<p>新学部設置場所の変更により、高等学校への訪問や企業との連携が計画通り進んでおらず、当初、計画していた入試制度の実施計画が遅延している。昨年度から佐世保市との協議は進めているものの、入学者選抜制度における、「リケジョ」推進事業の連携体制構築、社会人・留学生受け入れのための入試制度設計、リカレント・リスキリングプログラムの詳細検討が進展していない。学内において実施計画の見直し・協議を行っていたが、依然として検討段階に留まっており、実施に向けた体制が十分に整っていない状況であった。今年度は、周辺地域の高等学校や企業との連携を強化し、早急に体制の見直しを図る計画である。</p>	<p>入学者確保に向けた各種取り組みの実施が後手に回っている状況であることを踏まえ、今後は設置認可に向けた手続きと並行して、女子枠や社会人枠・留学生枠の具体的な入試制度設計を早急に進める。また、佐世保市および県内の高等学校との連携強化、オープンキャンパスでの積極的な広報活動、「リケジョ」推進事業の本格的活用、企業を主体とした女子学生への支援制度の構築要請など多様な入学者確保を着実に推進していく計画である。また、企業訪問に際して、社会人枠の推進広報やこれまでの海外提携校行への新学部設置周知による留学生の受け入れを行っていく。</p> <p>今年度は、高校訪問は、入試募集センターが、企業は地域連携室が担当し、計画を立て申請時に公表された「学部再編等による特定成長分野への転換等の構想」の内容や「新聞記事」をもとに説明を行っていく。</p>

大学名	長崎国際大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	455	455																		
		入学者数	人	424	411																		
	その他の学期	入学定員	人	5	5																		
		入学者数	人	30																			
	入学者合計	入学定員(A)	人	460	460																		
		入学者数(B)	人	454	411																		
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.99	0.89																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	2160	2160																		
		編入学定員	人	40	40																		
		在籍者数(D)	人	1994	2007																		
		編入学者数	人	59	65																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.92	0.93																		

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定-6年	選定-5年	選定-4年	選定-3年	選定-2年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		78,123	100,234	150,478	236,082	117,670	255,823													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	122,794
本事業による助成金の額(F)	千円	1,461,250
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	159,325

特記事項

--